

登録コード	EKF05900	開講年度	2026			
授業科目	国語科教材開発演習				担当教員	大井 和彦 他
英文授業名	Seminar on Teaching Material Development (the Japanese Language)				副担当	小林 比出代
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年
講義室			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】			【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ					
	教育の専門職としての学識・技能				教育・研究活動を遂行する上で必須となる国語科教育に関する専門的知識・能力を教材観の視点から習熟し、授業実践や研究活動に活用できるようになる。	
	2 4 E Aカリ					
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				国語科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。	
	子どもの多様なニーズへの対応力				言語に関する専門的知識・能力を習得して、教育活動に必至の公共的使命倫理観を深化し、教育活動の場に生かすことができるようになる。	
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				授業実践を含む教育活動を遂行するにあたって必要な専門的知識・能力を素地として、教育活動に必至の教養・専門性を深化した上で、授業実践を含む教育活動の場に幅広く柔軟に生かすことができるようになる。	
(2)授業の概要	演習形式で、国語科教育学・日本文学・日本語学・書写書道等の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用した教材等についての知見を取り込みながら、国語科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。 教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。					
(3)授業計画	第 1 回： 各自の問題意識に基づく教材・教具に対する課題設定 第 2 回： 教材の特徴や有効な活用方法および既存教材・関連研究の分析 第 3 回： 各自の問題意識に基づく教材開発の方法の理論と既存教材・関連研究の分析 第 4 回： 各自の問題意識に基づく教材・教具の開発 第 5 回： 各自が開発した教材・教具についての検討 第 6 回： 各自が開発した教材・教具についての議論を踏まえての改良 第 7 回： 成果とまとめおよび各自が開発した教材・教具を活用した学習過程の構想（レポート提出） 授業アンケート 各回とも原則として複数の教員によるTTで指導をする（分担、単独等は適宜対応）。					
(4)成績評価の方法	「授業の達成目標」4点について、次の方法によって総合的に評価する。 ・各回の発表内容（40％）、質疑応答・議論の内容（20％）、およびレポート（40％）によって評価する。 ・評価割合は、若干の調整をおこなうことがある。					
(5)履修上の注意	内容によって、授業日程や開催場所を変更することがある。 履修に当たっては、自らの研究課題を考慮し、指導教員と相談の上で決定すること。					
(6)質問、相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、別表「担当教員のオフィスアワー」を参照すること。					
(7)成績評価の基準	「卓越している」 秀：(1)研究課題、(2)理論的枠組み、(3)授業内容と専門性、(4)研究の意義、のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できた上で、(1)～(4)のうち3つ以上について発展的な発表、討議、およびレポートが実現できている。 「かなり上である」 優：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できた上で、(1)～(4)のうち2つについて発展的な発表、討議、およびレポートが実現できている。 「やや上にある」 良：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できた上で、(1)～(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表、討議、およびレポートが実現できている。 「水準にある」 可：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できている。 「下にある」 不可：上記(1)～(4)について先行研究の成果と限界に基づいた発表、討議、およびレポート構成が実現できていない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】質疑応答・討論のための資料を準備すること。また、研究課題に関連した文献等を、図書館等で検索・収集し、研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり、吟味したりすること。 【事後学習】質疑応答・討論を通じて生まれた課題について、事後に各自で調べて再検討すること。					
【教科書】	授業中に指示する。					

【参考書】	授業中に指示する。
-------	-----------